

2018年7月18日
ガラス再資源化協議会

第47回 日本産業技術大賞の受賞

株式会社エヌ・ピー・シー（代表取締役社長：伊藤雅文）は、日刊工業新聞社主催の第47回日本産業技術大賞において、「ホットナイフ分離法を用いた太陽光パネルのリサイクル」（推薦者：ガラス再資源化協議会 代表幹事 加藤聡）で審査委員会特別賞を受賞しました。



「ホットナイフ分離法」は、将来的に大量に排出されることが予測される太陽光パネルを、効率的に、かつ低コストでリサイクルするために生み出された技術です。樹脂層とガラスの間に高温の刃を当てて、ガラスを割ることなくセルその他の部材と分離することで、有価物とガラスの完全リサイクルを可能にしました。処理時間はパネル1枚あたり50秒と短く、費用も1ワットあたり5円という低コスト処理を実現しています。排出パネルの処分方法として、現在広く行われている粉碎・埋め立て処理と比べて、環境負荷を大幅に低減し、資源の有効活用に貢献する技術です。審査においては、こうした技術の最新性と、社会貢献的な要素が評価され、今回の受賞にいたりました。

「日本産業技術大賞」は1972年に創設された表彰制度です。その年に実用化された革新的な大型産業設備・構造物や、先端技術の開発、実用化で顕著な成果をあげた企業・グループを表彰し、産業界や社会の発展に貢献した成果をたたえとともに、技術開発を奨励することを目的としています。なお、第47回を迎えた今回は以下の3件が受賞しました。

区分	タイトル	受賞者
内閣総理大臣賞	アモルファスモータ 一体型 オイルフリースクロール圧縮機	日立製作所、日立産機システム
文部科学大臣賞	スマートメーター通信システム及び920メガヘルツ無線マルチホップ通信技術	三菱電機
審査委員会特別賞	ホットナイフ分離法を用いた太陽光パネルのリサイクル	エヌ・ピー・シー